

琉球リースだより

新風

mi-kaji
【みーかじ】

いろんなところでリース

簡単解説

パツパツとわかるリースの話

社員のエッセイ

どうーちゅいむにー

2023

新年号

新風【みーかじ】

2023

第27号

編集／発行：株式会社琉球リース

企画・制作：株式会社アドスタッフ博報堂

リースカー向け自動車保険のご案内

リース契約に自動車保険を組み込むと、楽・得・安心です♪

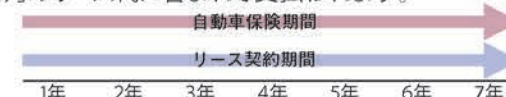
楽

リースカー向け自動車保険2つのポイント

1. 自動車保険のご契約管理・保険料のお支払いがラクです!

⇒自動車保険の契約期間はリース契約期間にあわせて設定され、**毎年の更新手続きは不要です。**

⇒保険料は毎月のリース代に含まれて支払われます。



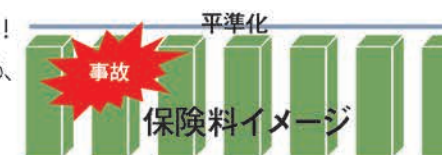
☑自動車保険の契約期間はリース契約期間にあわせて設定されます。
☑「長期一括払契約」のため、毎年の更新の手続きも不要です。

得

2. リース期間中の保険料はずーっと一定です!

⇒万が一事故がおきた場合も保険料は変わりません!

⇒また、リース契約期間中、保険料が平準化されるため、特に**新規保険や割引率の大きい方にお勧めです!**



万が一の事故でも安心!

充実した補償とサービスでお客様をしっかりとお守りします!

☑長期一括払契約

☑リースカーの車両費用保険特約

☑充実のロードサービス

当社は、2019年10月から大同火災海上保険(株)の代理店として「リースカー向け自動車保険」の取り扱いを始めました!

詳しくは、当社の営業担当者、または営業統括部までお問い合わせください。

株式会社 企業のおすそを共に考える
RL 琉球リース

琉球銀行グループ
BANK OF THE RYUKYUS GROUP

<https://www.release.co.jp/>

【本 社】〒900-8550 沖縄県那覇市久茂地1丁目7番1号 琉球リース総合ビル10階 TEL.098-866-5500 FAX.098-863-0381
【営業第三部】〒904-0004 沖縄県沖縄市中央1丁目1番10号 琉球銀行コザ支店共同ビル6階 TEL.098-939-4880 FAX.098-939-4882

いろんなところで リース

第27回



リースの対象物件といえば、小さなものはOA機器・パソコンから、大きなものは船舶・

航空機に至るまで、広い分野にわたって、お客様のニーズに応じています。

そこで、このコーナーでは、当社が選定したリース物件にスポットを当てて紹介します。

人手不足を解消する 配膳ロボット



多彩な機能を備えた配膳ロボットは、コロナ禍により活躍の場を広げ、飲食店のサービス品質向上を実現しています。

配膳ロボットを活用することで、重い食器を持つテーブルと厨房を何度も行き来する必要がなく、従業員は接客に集中。ピーク時の人手不足解消にも役立っています。液晶画面で行き先やルートを設定でき、操作も簡単。最先端のSLAM技術を搭載し、人や障害物を回避。急に人が現れても危険を避け、安全に料理を運べます。

ディスプレイ付き配膳&案内ロボットは、わずか55cmの幅を通過できるコンパクトなサイズ。中央前面には18.5インチの大型ディスプレイがあり、各種案内や広告表示が可能です。季節に合わせた宴会プランやおすすりメニューの案内などの一役も担います。

猫をモチーフにしたかわい表情はお客様にも大人気。「すみません、道を空けてください」などの言葉を発したり、ベーストーンを歌ったり、さまざまな会話の設定も可能。耳を触ると声や表情で反応し、お客様が見て触って、ロボットとのコミュニケーションを楽しめます。お客様はもちろん従業員もロボットと触れ合うことで、店内の雰囲気明るくなっています。



常務取締役
比嘉 伸一郎

代表取締役会長
松原 知之

代表取締役社長
中川 通男

常務取締役
渡嘉敷 斉

執行役員
(企画総務部長)
宮城 普実弘

監査役
大城 剛

執行役員
(審査管理部長)
金城 幸史

新春のお慶びを申し上げます



代表取締役会長
松原 知之

明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年の沖縄県経済は、新型コロナウイルス感染症の第七波による観光の落ち込み、ウクライナ紛争によるインフレなど、依然として取り巻く環境は厳しいものがありました。

しかしながら秋以降は、コロナ感染症の影響が大分軽減され、行動制限の解除や全国旅行支援の開始など、経済状況は大きく好転して参りました。本年は久しぶりに期待が持てる年になりそうです。

お陰様で当社は昨年設立50周年を迎えました。本年は、次の50周年に踏み出す最初の年になります。

本年も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長
中川 通男

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年はウクライナ紛争に端を発した物価高やサプライチェーンの混乱、急激な円安の進行などが沖縄県経済に対しても影響を与えた1年でした。

一方で、年終盤にはコロナの行動制限が解除され観光客が戻りつつあるなど明るい兆しも見えてきています。

当社におきましては昨年の50周年という節目の年を終え、次の50年へ向け新たなチャレンジを進めて参る所存であります。

本年も変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

年賀状に代わり本誌にて新年のご挨拶とさせていただきます。



今、話題の街のトレンドを紹介!

おきなわ文化再発見!

本土復帰50周年を迎えた2022年は、県内各地でさまざまな記念イベントや取り組みが行われました。今改めて、沖縄の素晴らしい文化や伝統、歴史を見直す機運が高まっています。沖縄の伝統を現代に生かし、さらに次世代へつなげる取り組みや、沖縄の文化を体験できる新しい施設をご紹介します。

紅型・漆芸×琉球銀行 若手工芸家の育成・技術伝承

琉球銀行では、紅型の振興と若手工芸家の育成、紅型デザインの新しい領域を追求していくことを目的に、1992年から毎年「りゅうぎん紅型デザインコンテスト」を開催。毎回多くの応募があり、若手紅型作家の登竜門ともいえます。

応募作品を展示会で発表する他、受賞作品を同行のカレンダーや通帳、広報物などに広く活用しています。また、2009年からは、飛行機の座席のヘッドレストカバー、かりゆしウェア、バッグやハンカチなど、県内企

業の商品デザインに幅広く活用されており、紅型の発展に貢献しています。

さらに2019年からは、「りゅうぎん琉球漆芸技術伝承支援事業」を実施しています。



博物館や美術館に収蔵されているような制作に高い技術が必要とする琉球漆器の復刻を通して、琉球漆芸の技術伝承や産業継続の支援を目的とした事業です。3年間を1期として一つの技法を学び、琉球漆芸の技術を継承しています。



キャンプ用品×伝統工芸 沖縄観光と伝統工芸を支援

3密を避け、家のベランダやガレージでも非日常空間を楽

しめると人気加速したキャンプブーム。コロナ禍で大打撃を受けた沖縄観光や伝統工芸品をキャンプギアで盛り上げたいと、アウトドアショップ燈人では、琉球ガラスを使ったオリジナルのオイルランタン「琉球ガラスグロープ」を開発しました。元々は耐熱性のない琉球ガラスですが、県内で唯一、耐熱琉球ガラスを製造している工房と協力し、約2年かけて製品化。

沖縄の海や空をイメージし



た水色・青色、火を灯すとオレンジ色に輝くアンバーの3色を用意しています。淡いグラデーションの色合いが魅力でモダンな雰囲気もあり、インテリアとしても楽しめます。

また、壺屋焼を使った新たなオイルランタンにも挑戦中。香炉を参考に、虫よけハープ入りの燃料を効果的に燃焼できる商品の開発が進んでいます。

作り手×使い手の交流の場 おきなわ工芸の杜

沖縄には国指定伝統的工芸品が16品目あり、織物12品目の他、琉球びんがた、琉球漆器、壺屋焼、三線が指定されています。また、琉球ガラスや金細工



の技も継承されており、多種多様な工芸品があります。これらの伝統工芸の継承・発展のため、情報発信、作り手の支援、作り手と使い手の交流の場として、「おきなわ工芸の杜」が2022年4月にオープンしました。

施設内には、県内の工芸作家が手掛けた作品を見学できる展示室の他、作り手がものづくりに携わりながら工房の運営について学べる貸し工房などもあり、若手作家の活動をサポートしています。

来訪者は、制作の様子を見学できるだけでなく、2階にある体験工房では藍染、藍染と織り（コースター）、陶芸（シー

サー、マグカップなど）体験ができます。

王都・首里から魅力を発信 首里染織館 suikara

王都首里で磨かれてきた琉球びんがた・首里織の伝統技術を学び、次世代につなぐ場として、2022年4月にオープンした「首里染織館 suikara」。工芸の島ともいわれる沖縄で、国指定伝統的工芸品16品目のうち、13品目を占める染め・織り。県内各地にそれぞれ特徴がある織りが受け継がれています。中でも首里では王族・貴族・土族用に、格調高い華やかな織物が織り継がれています。



同館には、琉球びんがた事業

協同組合・那覇伝統織物事業協同組合の後継者育成事業や体験プログラムを行う工房、展示ギャラリー、ショップ、情報コーナーがあります。

地域の方も利用できる研修室の他、琉球びんがた染め体験、機織りを使った首里織体験など、本格的な染め織りプログラムを用意しています。

空手発祥の地・沖縄を発信 沖縄空手会館

今や世界中に1億3000万人の愛好家がいるといわれる空手。沖縄伝統空手を独自の文化遺産として保存・継承・発展させ、空手発祥の地・沖縄を国内外に発信し、伝統空手の真髄を学ぶ拠点施設「沖縄空手会館」は2017年3月に開館。空手の稽古に利用できる道場や鍛錬室の他、研修室や会議室の貸し出しを行っています。

有料の資料室には専門的な情報から初心者・一般向けの体験コーナーまで、沖縄空手に関する情報を幅広く展示しています。また、空手に関する書籍がそろった閲覧室の他、自家製麺

の沖縄そばを提供する「Karate Cafe AGARI（カラテカフェアガリ）」もあります。

初心者にもおすすめの体験メニューは「瓦割り体験」（高校生以上）。空手着を着て瓦割りする様子を自分のスマホでも撮影でき、思い出に残る体験ができます。

国内外の空手関係者だけでなく、空手経験のない方や空手に興味がある観光客も楽しめる施設です。



伝統工芸品を使った商品開発や文化体験メニューの提供など、沖縄の魅力がまたひとつ広がっています。

なるほど！ちなみに補助金は充電設備にしか活用できないのかな？



そうです！この制度を活用するとエコ社会に貢献でき、また、燃費も抑えることができるので一石二鳥ですよ！



工事費込みで補助金が活用できます。(注②) また、申請も主にリース会社が行いますので須場社長のご負担もほとんどありません。



でも、EVの動力は電気だね。充電が必要になった場合はどうするんだい？



ただし、申請期間が差し迫ってますので、早めの申請が必要です。また、予算の状況次第では申請期限前に終了となる場合もあるので注意が必要です。(注③)



充電設備は、須場社長の事務所駐車場に設置して充電することも可能です！



大変勉強になったよ！早速、EV車と充電設備のリース導入に向けて検討したいんだが！



それはいい！でも、充電設備費用や設置費用もかかるんじゃないの？



ありがとうございます！その前にお腹が空いてきたので、沖縄そばでも一緒にいかがですか！



実は、充電設備の補助金制度もあるんですよ！



まずは、早来君の燃費改善が必要だな…。



さすが、早来君！なんでも知ってて頼もしい！



「充電インフラ補助金」(注①)と呼ばれる制度です。充電設備は大別して普通充電設備、急速充電設備の2種類に分けられ、いずれにも補助金が活用できます！



(注①)本制度の詳細は下記ホームページを参照ください。
次世代自動車振興センターHP
<http://www.cev-pc.or.jp/>



◀こちらからもご確認できます。

(注②)予算残高によっては、補助金が減額もしくは交付がされない可能性があります。予算残高については、上記ホームページよりご確認ください。

(注③)本稿執筆時の情報となります。申請期限については、上記ホームページよりご確認ください。

そうなんだね。事務所に設置するならどんな充電設備がいいのかな。



普通充電設備は充電完了まで4~8時間かかります。急速充電設備は30~60分で充電完了です。短時間充電を求めるなら急速充電設備が望ましいですが、事務所に設置の場合は、普通充電設備でも充分かと思えます！



※本コーナーは、分かりやすさを第一に誌面を構成しているため、厳密には正確でない記述が含まれている場合があります。ご了承ください。

簡単解説
3分で

パッパッとわかるリースの話

第27回

アカバナー商事
すば
須場社長



このコーナーでは、リースに関するホットな話題、お役立ち情報などをできるだけ簡潔にお伝えします。



琉球リース
そうき
早来係長

補助金制度の活用で、エコ社会に貢献しよう！

うーん。聞いたことはあるが…。詳細はいまいちわからないな。どういった補助金制度なんだい？



須場社長、あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお祈りします。



電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)等の車両を購入時に補助金を受け取れる制度です。



あけましておめでとう。こちらこそよろしく。



この補助金制度は、リースで導入した場合でも活用できるので、これからEV車を導入検討している須場社長にとっておきの制度なんですよ！



昨年もいろいろ出来事がありました。印象に残っていることはありましたか？



たしかに、以前EV車の相談したことがあったね！覚えてくれたんだね！



そうだね…。物価の高騰かな。光熱費も上がってきているし、いつまで続くのか、気が気でないよ。



車種によって、補助金額が変わるのですが、EVの場合は最大92万円、軽EVは最大で55万円が補助金として交付されます！(注②)



たしかに。何もかも高くなっていますからね～。私も、財布のひもを引き締めないと…。



そうなんだ！でも、申請が不便だったり、負担にならないのかな？



早来君は、よく食べ飲みして燃費が悪いから、大変なんじゃないかい？



それについては、申請はリース会社がすべて行うので、須場社長のご負担はありません！



そうなんです。大変なんですよ！ところで、燃費といえば、須場社長にとっておきの情報をお持ちしました！



意外なところから、提案に入るね…。とっておきの情報とはなんだい？



なるほど！そんな便利な制度だったんだね！



「CEV補助金」(注①)はご存じですか？



営業第一部
中山 史裕

前職は広告関係の仕事をしていました。前職で培った経験を活かして、琉球リースでも力を発揮していきます！
趣味：スポーツ鑑賞
みんなで盛り上げたいので観戦の際は誘ってください！



営業第一部
伊佐 美南海

沖縄国際大学を卒業後、4月から琉球リースの一員となりました伊佐美南海です。初めての社会人は不慣れな事も多くまだまだ未熟ですが、会社の戦力としてお客様の力になれるよう精一杯頑張ります！
よろしくお願いいたします！



各部署に7名の
新人・出向者が
配属されました！

新入社員・出向者紹介

これからお世話になります！何卒よろしくお願ひします！

営業第二部
田崎 キャサリン さつき

2020年入行、2022年10月よりりゅうぎんから出向で参りました。横文字の子がいたな、とだけでも覚えていただけたら光栄です。琉球リースの一員として、お客様第一に頑張ります！
よろしくお願いいたします。



営業第三部
砂川 和斗

4月より琉球リースに出向しております、バンジージャンプに興味津々、砂川和斗と申します。営業第三部で国頭地区を担当しており、綺麗な空気と景色に癒されながら日々営業活動に励んでいます。スピード対応で一生懸命頑張りますので皆さまよろしくお願ひします！



営業統括部
崎原 盛之

前職は医療機器メーカーにて営業をしていました。医療施設を得意分野としながら、お客様にとってより良い提案ができるよう努めていきたいと思ひます。また草野球をする機会がありましたら打って走って守ります！



営業統括部
仲里 翔太

前職は琉銀の配送課でメール便作業をしていました。趣味は漫画とアナログボードゲーム、YouTube！最近よく見るYoutuberは「デフサポちゃんねる」です。沢山の出会いに感謝し、日々精進します。



車両推進部
我那覇 圭

琉球リースに配属され、新たなステージでワクワクが止まりません。「楽しく全力投球」をモットーに、みんなで盛り上げられたらと思っています！お喋り大好きなので、業務外のことでも何でも話しかけて下さい！



【 沖縄のクリエイター 】

今回の表紙について（表紙では一部でしたが、作品全体をご紹介します。）

南国の太陽から溶け出たようなカラフルな色。ポップな温もりの中にも洗練された優美さとモダンデザインのかっこ良さを感じる器は、陶芸作家・金城有美子さんの作品です。かつては落ち着いた色味を好んでいたそうですが、子ども達を対象にしたワークショップで明るい色を使ってみると「可愛い！とすごく喜んでくれてみんなの笑顔がパツと咲いたんです」と話す金城さん。それ以来、色の可能性を追求し続け、土をこねる時から手に取る人の笑みを思い、心をこめて作陶しています。今後は、海色が美しい代表作「サンゴブルー」にまつわる珊瑚の保全活動のお手伝いもしたいと話してくれました。



作者紹介 陶芸作家 **金城有美子**



Profile
南風原町津嘉山生まれ。1997年、沖縄県立芸術大学大学院陶磁器科修了。その後、アジア各国にて数々の展示やインストレーションを実施。2010年に作家仲間と「tituti OKINAWA CRAFT」をオープン。沖縄の自然を感じる力強く繊細な造形や色彩は各方面で高く評価され、精力的に制作を続け県内外で活躍。

tituti OKINAWA CRAFT（ティトゥティ オキナワクラフト）
那覇市牧志3-6-37 ☎098-862-8184
9:30~17:30 /火曜定休

作品名：「マグカップ、トールカップ」
虹や空、花々など、沖縄の自然を思わせる鮮やかなカラーのカップシリーズ。愛らしくも、上品さを感じるデザインです。手に取ると驚くほど軽く、土の風合いを感じるざらりとした質感。唇にあてた時の感触や持ちやすさにもこだわり、使う人への想いがつまった作品です。

制作風景



その他の作品



沖縄今昔物語

意外と知らない琉球料理のホント

ソーミンチャンプルーは、チャンプルーじゃない!?

現在、琉球料理と呼ばれるものは、宮廷料理と庶民料理の二つを源流としています。宮廷料理は、琉球王朝時代に首里の宮廷や士族階級の中で発達し、庶民料理は各地の庶民の家庭で育まれてきました。

琉球王朝時代、首里城で行われた年中行事、宗教的儀式、接待などのために華麗な宮廷料理が作り出されてきました。今日まで宮廷料理の流れを伝えるものに「東道盆(トウダンプン)」があります。足付きの高盆に花イカや豚肉のごぼう巻き、かまぼこ、ミナタル、田芋のから揚げなどが盛りられ、色や形も美しい料理です。

庶民料理は、各地の庶民の家庭で、地域ごとに工夫を加えながら発達してきました。特に、海や山の幸が集約する貿易の中心地であった那覇は、久米村と辻の遊郭という特色を持つ地域の影響を受け、独自の発展を遂げていきました。

琉球料理と 沖縄料理の違い



琉球料理とは、何代にもわたって受け継がれ、人々の生活や習慣に根を下ろした沖縄独自の食材や調理法を指します。一方、沖縄料理とは、世界中からやって来た食べ物を含むグロバルな現代の食習慣です。特に、戦後の配給食料品として沖縄の人が初めて出合ったランチョンミートやポテトビーフハッシュなどの缶詰、バター、チーズなどは、現在の沖縄料理に欠かせない食材になっています。

琉球料理の調理法

琉球料理の主な調理法は、煮物、炒め物、揚げ物が一般的で、



蒸し物や焼き物は少ないです。また沖縄の汁物は、豚だしやかつお節のだしをたっぷり使い、コンブを野菜感覚で使うことも多いです。コクを出すために濃い豚だしで材料を煮含める料理も多く、みそ汁の仕上げに脂を落とすこともあります。

家庭でもおなじみの調理法は、チャンプルー、イリチー、タシヤー、ソブシーです。

チャンプルーは島豆腐と季節野菜の炒め物(例:ゴーヤーチャンプルーなど)。

イリチーは細かく切った食材にだし汁を加えて炒りつけた料理(例:クワイイリチーなど)。

タシヤーはごはんやそうめんなど、でんぷん質のものを炒めた料理(例:ソーミンタシヤーなど)。

ソブシーは生野菜など汁気の多い食材に豆腐や豚肉を加え、みそで味付けした煮物(例:ナーベラーソブシーなど)。

チャンプルーは食堂でもよく見かけるメニューですが、実は、そうめん炒め物には島豆腐が入っていないため、「ソーミンチャンプルー」ではなく「ソーミンタシヤー」が本来の名称なのです。炒め物は全て「チャンプルー」と勘違いしがちですが、使う食材によって名称が異なります。

本土復帰以来、沖縄の食生活はさらに幅が広がり、豊かになりました。国内外の多種多様な食品が回り、私たちの食生活を大きく変えています。他の国々の料理や食材をうまく取り入れつつ、身の回りにある食材を活用する地産地消を忘れず、より良い沖縄料理を作り続けていくことが大切かもしれません。

【参考】『琉球料理』琉球・沖縄史

社員のエッセイ どうちゅいむにー



さまざまな経験と 出会いを宝にして

営業第二部 営業課 副部長兼営業課長 山村 民夫



平成3年に入社し、その年に本社営業部から、浦添支店開設の第一期スタッフとして勤務。以来、多くの部署異動を通して様々な経験とスキルを身に付けてきてもらいました。

浦添支店は車輛を戦略的商品として位置付け、カーディーラーの集中する浦添市に開設。時代の新しい風を感じ、ワクワクしたのを覚えています。

その後バブル崩壊のあおりを受け約10年は社会的な経済低迷の厳しい時代が続きました。当社としても予断を許さない時期でした。そんな中でも、一緒に荒波を乗り越えた先輩や仲間がいたから今があり、会社一丸となって見事にV字回復を成したことは、私個人にとっても自信となり、大きな力となっています。当時、共に励まし合った同期5人は今でも琉球リースで奮闘しています。

浦添から本社営業部、総務部に異動となり、初めての業務に

四苦八苦。中間決算のために土日も出勤していたさなか、本社ビルの前で行われた那覇大綱挽をオフィスの窓から見下ろすように観戦したことも、この時期、この業務をしていたからこそ得られた忘れがたい思い出です。

総務部に10年在籍した後、再び営業部に戻ると宮古・石垣を担当。特に宮古はいわゆる建設ラッシュのバブル期でしたので受注も多く、中でも伊良部大橋の建設に使うクレーンを契約したことは、離島開発の一大事業に関われたと、改めてこの仕事の意義と喜びを感じたものです。

離島を担当した後、本社の那覇地区、中部支店(現 営業第三部)、審査管理部を経て現在の部署に。お陰様でほとんどの部署を経験することができました。また当社のCMにも4回ほど出演し、滅多にない経験もできました。



浦添支店(平成3年頃)

仕事以外の場でも、琉銀グループ運動会など様々なイベントに参加し、グループ間の交流も多くありました。また、社内では釣りクラブを結成し石垣島まで遠征して、メンバーの出身地の小浜島まで足を伸ばしたのですが、区長さんを筆頭に集落の皆さんが宴を開いてくれて、人の純粋な温もりに触れたのも良き思い出です。

コミュニケーションは良い関係を構築する大事な基盤です。また、お客様の要望には早く回答する、細かに報告・連絡を行うことをモットーとしています。小さなことですがその積み重ねが大切だと思います。今後は、リースに付加価値を創造し、サービスの拡充を図る上でも、お客様からのダイレクティブな情報や多様な経験から得られるソースが重要な要素となり、当社の成長にも繋がると考えています。



琉銀グループ運動会